

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルチャオ（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～	令和7年1月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	令和7年2月5日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	外出活動を取り入れている	お店での買い物や、コミセンなどの公共施設の利用、公園等への外出など、地域での生活をイメージして活動を計画し、生活経験を広げるようにしている。 親一人では連れていくのが難しい場所にも、複数の支援者がいることで挑戦できる。	地域の中の社会資源をもっと掘り起こす。 地域の方と交流する機会を積極的に作っていく。 保護者の方も挑戦できるように、支援の段階や方向性についてお知らせしていく。
2	活動が選択できる	利用者一人一人の得意なこと・苦手なことを考え、メインの活動の他にサブの活動も考えるようにしている。 利用者に合わせ、メインの活動に取り組みやすくなる工夫を考えたり、アイデアを職員間で出し合うようにしている。	利用者の「やりたい」気持ちを引き出ししながら、いろいろな活動を用意していく。 「やりたくない」気持ちも認めながら、利用者本人が納得して取り組める環境を整備していく。
3	ミーティングを行い、一人一人に合わせた支援や対策を全員で考えている	時間は短くても、支援後に必ず振り返りの時間を取り、よかった支援、改善の必要のある支援について職員間で共有するようにしている。 利用者一人一人が安心して過ごせることを第一目標に、それぞれの過ごし方、支援の仕方について考えるようにしている。	限られた時間の中で効率よくミーティングを行い、情報を共有していく。 外部の研修やスーパーバイズを活用し、支援の質を向上させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	評価アンケートで、児童発達支援に比べて「わからない」の回答が多い	保護者への周知が足りていない。情報の発信が少ない。 保護者の方が、支援場面のイメージが持てていない。	法人のHP（昨年12月から運用開始）を活用し、支援場面の様子や情報を発信していく。 保護者が参加できる機会を作っていく。 （モニタリング時に参観する等）
2	「非常時の対応」について保護者に伝わっていない	曜日によって利用者が異なり、年に2回の実施では参加できる利用者が限られてしまう。 各種マニュアルに関して、保護者への周知、説明が足りていない。	複数回の実施にし、参加できる機会を増やす。 消防訓練だけでなく、事故や不審者対応など、様々な訓練を企画・実施し、保護者に周知していく。 HPなどを活用し、各種マニュアルについて周知していく。
3	茶話会などを企画しているが、参加が少なく、保護者間の連携をサポートできていない	保護者のニーズに合致していない。 ある程度の連携はすでにできているため、保護者が参加したくなるような内容を企画する必要がある。	中高生の保護者のニーズに合った企画をしていくため、聞き取りを行っていく。 親子で参加できる行事を企画してみる。